

中国語系日本語学習者による
日本語漢字二字熟語の認知処理における母語の影響

玉岡賀津雄(広島大学)
松下達彦(桜美林大学)

要 約

中国語系日本語学習者が、母語の漢字の知識を利用して日本語の漢字を効率的に理解できることは日本語教育の経験上よく知られている。しかし、中国語の漢字表象がどのくらい日本語の漢字処理に影響するかを認知的に測定した研究は極めて少ない。そこで、音韻・書字・意味の側面から三つの実験を実施し、中国語系日本語学習者による日本語漢字の処理の効率性を検討した。これによって、母語の中国語と学習対象である日本語の漢字表象の認知的構造と「相互活性化」(interactive activation)の関係を解明する。

実験1(音韻的影響)では、中国語と日本語で発音が類似している条件(例えば、安心で中国語の/anxin/から日本語の/ansin/)、および大きく異なる条件(例えば、化学で中国語の/huaxue/から日本語の/kagaku/)の2条件を設定した(Appendix Aを参照)。そして、漢字二字熟語をコンピュータのスクリーンに提示してから発音までに要する時間(即ち、命名潜時)と発音の誤答率を測定し、両言語間の漢字処理における音韻的影響を考察した。その結果、Table 2の命名潜時および誤答率から分かるように、音韻的な類似性は、日本語の漢字二字熟語の命名には、影響しないことが分かった。本研究の日本語能力の高い中国語系日本語学習者には、日本語の漢字二字熟語の命名には、中国語の音韻的な知識を必要としないようである。つまり、日本語の漢字二字熟語の音韻処理に関しては、日本語と中国語の間に音韻的表象群の相互作用は見られないと考えられる。

実験2(書字的影響)では、日本語の漢字二字熟語で中国語の書字と同じ条件、左側の漢字の一部または全体が異なる条件、左右の漢字が異なる条件を、正しい日本語の漢字二字熟語と適当な漢字2つの組み合わせで意味を持たないものについて、それぞれ設定した(3条件の2種類で、合計6条件; 詳細の刺激語は、Appendix Bを参照)。これらをコンピュータのスクリーンにランダムに提示し、語彙性判断課題を課し、中国語漢字の簡体字の書字的影響を考察した。分析の結果、Table 4に示した反応時間および誤答率から、正しい肯定反応では、被験者分析で書字的類似性の影響が見られた。しかし、項目分析では、その影響は見られなかった。そのため、漢字二字熟語の特質によって、漢字二字熟語の処理が異なっているのではないかと考えられる。一方、正しい否定反応では、書字的類似性の影響が被験者および項目分析の両方で見られた。これは、簡体字二つを組み合わせた条件になる日本語の漢字二字熟語では、否定までの時間が他の条件に比べて長くかかることを示している。全体として、書

字的類似性の影響が、ある程度見られるようである。しかし、その影響は弱いと言えよう。これは、日本語と中国語の書字的表象に相互作用活性化がないとは言えないものの、その活性値はかなり低いことを示している。

実験3(意味的影響)では、日本語と中国語に意味的に存在する単語、日本語には意味的に存在するが中国語にはない単語、さらに、日本語には意味的には存在しないが中国語にはある単語、そして、両言語で意味的に存在しない単語の4条件を設定した(Appendix Cを参照)。そして、語彙性判断を実施した。Table 6の反応時間および誤答率から分かるように、正しい肯定反応については、日本語と中国語で意味的に存在する漢字二字熟語は、日本語にしかない漢字二字熟語に比べて、有意に速くまた正確に語彙性判断が行われた。また、正しい否定反応については、中国語に存在しても日本語に存在しない漢字二字熟語を日本語にはないと否定するのは、両言語に存在しない漢字二字の組み合わせ語を否定するのに比べて、極めて難しいことが分かった。つまり、日本語と中国語で強い意味的な相互作用の活性化が起きていると思われる。とりわけ、中国語の意味的な活性化は、たとえ日本語の漢字二字熟語の処理であってもその影響が強いことが分かる。

以上の音韻・書字・意味に関する三つの実験によって、中国語の漢字のどの側面の特徴が日本語の漢字処理に影響するかが明らかになった。まず、音韻的表象群は、日本語および中国語では、相互作用による活性化は起こっていないようである。また書字的表象においては、決して強くはないものの、中国語系日本語学習者は、中国語の書字的表象を活性化する傾向があるようである。最も興味深いのは、意味的類似性である。意味的表象群(意味的なネットワーク)は、日本語および中国語とが別々に存在するとは考え難い。おそらく、双方の言語に共通していると考えられる。つまり、意味的な活性化は、日本語からでも中国語からでも起こり得るため、その影響が強く現れるのであろう。要約すると、母語の影響は、音韻的関連では生じにくく、書字的な関連でもあまり強くない。しかし、漢字の意味的な関連では、両言語間で共通した意味的なネットワークにアクセスするため、促進や干渉の効果が認知処理の条件に応じて見られる。

ただし、今回の実験の被験者は平均的に学習歴も長く、日本語能力も高い。したがって、特に音韻的、書字的影響については初級・中級レベルにおいてどの程度の影響があるのかを追実験して確認することが必要である。